



鰻と松茸



川崎ゆきお

「よく降りますなあ」

「秋の長雨ですよ」

「やっと涼しくなったと思ったら、雨ばかりですよ。カラッとした天高き秋の空を見たいものです」

「この雨で、松茸がよく育つのです」

「本当ですか」

「さあ、聞いた話ですがね」

「松茸、高いので、よく育とうが出来が悪かろうが、あまり関係ないですよ」

「高いですからなあ」

「そうです」

「しかし、雨で困る人もいれば、喜ぶ人もいる。誰かが不幸になれば幸せになる人も出ますよ。これは黙っていますがね」

「しかし、松茸は国産ですか？」

「あるでしょ。国産が」

「鰻なんかは海外のが安いようです」

「ああ、鰻の国産、これは高い。天然物など売っていないでしょ。売り物にならないほど小さかったりしてね」

「松茸と鰻、似てます」

「しかし、松茸の方が高いでしょ」

「いや、形がアレでしょ」

「ああ、そっちの話ですか。それなら松茸の方が似てますよ。まあ、その気で八百屋で見れば、正に陳列ですなあ」

「それより、どうです」

「え、何がですか」

「この雨、あなたは得をする方ですか」

「いや、損というわけじゃないですが、まあ、鬱陶しいですよ。外に出るのが大儀になる。行楽にもいけない。だから、普通でしょ」

「私は雨が降ると仕事が休みなのです。バイトですから収入が減ります。だから、雨が続くと、どんどん損になる。しかし休めますから身体が楽だ。それで得をするかもしれません。雨が降っていないときは連続して毎日毎日仕事ですよ。これは疲労が溜まる。しかし収入は上がる」

「じゃ、雨で損も得もしていないと」

「まあ、一週間も雨が続くと、流石に休みっぱなしで、身体がなまってきますよ。それに一週間無収入なのは厳しい話になります。だから、長雨は損です」

「この雨一週間目ですよ」

「そうです。だから、もう損です」

「松茸も食べられませんねえ」

「いえ、今年は鰻は食べたし、実は松茸も何度も食べているのですよ」

「晴れが続きましたか。それで収入が増えて」

「いや、今年の盆過ぎから雨が降ってましたから、やや損気味でしたねえ。しかし松茸は何度も食べました」

「ほう、聞きましょう。どうして」

「松茸ご飯ですよ」

「ああ、かけらが入っているやつでしょ」

「そうです」

「まあ、それでも食べたと言えるのでしょうかねえ」

「鰻ご飯もそうです」

「鰻重とか、鰻丼じゃないのですか」

「鰻ご飯です」

「それもかけらですか」

「そうです」

「まあ、それでも鰻を食べた、松茸を食べたと言えますなあ」

「そうでしょ。それに私、鰻も松茸もあまり好きじゃないのですよ」

「それは幸いだ」

「松阪肉も松阪で食べました。松阪肉入り肉マン」

「はい、もう結構です」

了